

市民と議会との語る会実施報告書

日 時	令和8年5月13日（水） 午後7時 ～ 午後8時30分頃
会 場	味真野公民館
出席議員	清水 一徳 議員（班長） 松本 照美 議員 畑 勝浩 議員 小玉 俊一 議員 題佛 臣一 議員
参加者（市民）	20名
司会（班長） 議会報告者 全体記録係	司 会 ：清水 一徳 議員 議 会 報 告 ：畑 勝浩 議員 記 録 ：松本 照美 議員
【1部】 定例会概要報告等 （報告者）畑議員	<p>1. しきぶ温泉湯楽里について</p> <p>Q 越前市唯一の温泉施設「湯楽里」について、今後の方向性として複数の選択肢が示されているが、施設廃止なども含まれているのか。現実的にそのような判断はあり得るのか。また、利用者も多いため、継続運用を前提に検討すべきではないか。</p> <p>A 行政としては複数の選択肢を提示しているが、現状として施設は老朽化が進んでおり、天井の損傷や壁面の劣化など安全面での課題がある。壁面タイルについては、部分改修ではなく全面改修が必要との認識で方向性は定まっている。</p> <p style="padding-left: 2em;">現在は専門家を交えた検討チームを組み、改修内容の精査を進めている段階。市民からも早期再開を望む声が多く、可能な限り早急に対応したいと考えている。</p> <p>2. 住宅支援について</p> <p>Q 住宅支援事業について、前年度より予算が減少しているが、利用実績が低かったことが理由なのか。</p> <p>A 全体として人口減少対策の中で住宅支援施策は重要である一方、多様なニーズを十分に満たせていない現状がある。</p> <p>Q 制度は移住者誘致だけでなく、既存住民の住環境改善にも活用できる仕組みが必要ではないか。例えば空き家等の賃貸住宅の改修支援があれば、地域定住につながるのではないか。</p> <p>A ご指摘のとおり、ニーズと制度のミスマッチは課題となっている。特に空き家問題は深刻であり、補助制度の規模や使いやすさについては他自治体と比較しても改善の余地がある。今後は実態に即した支援制度の検討が必要である。</p>

3. キッズパーク整備について

Q キッズパーク整備にあたり、住民ニーズの調査や施設コンセプトの検討は十分に行われているのか。補助金の期限ありきで計画が進んでいるのではないか。

A 施設整備は基本的に行政が主体となって計画し、その後議会で審議する形をとっている。議員が初期段階から参画することはない。

(補足1) 今回の施設は、屋内で遊べる場の充実を目的として計画されたもので、障害のある子どもも利用できるインクルーシブな施設を目指している。

実際には計画が急速に進んだため、詳細を十分に詰めきれていない部分もあることは否めないが、他自治体の事例を参考にしながら、対象年齢の拡大やインクルーシブ機能を重視して予算承認に至った。

(補足2) 教育厚生委員会で方向性の不明確さについて議論があった。

特に以下の点が課題として挙げられた。

- ・当初は新幹線駅前整備と一体での検討だったが変更された経緯
- ・駐車場や立地条件の妥当性
- ・施設規模と予算の妥当性
- ・年間約2,000万円の維持管理費負担

今後は、事業の初期段階から議会への情報共有と議論の場を設ける必要があることを議論した。

(別意見)

年間費用には賃料も含まれており、継続的な支出となるが、子どもたちの利用価値を踏まえて評価すべきとの意見もある。

【2部】

意見交換会

(A班)

進行：題佛議員

記録：畑議員

清水議員

1. 火葬場整備事業について

Q 火葬場整備は全体予算(約407億円)の中に含まれているのか。また、事業費はどの程度か。

A 含まれている。現時点での事業費は約18億円を想定している。

Q 整備内容は改修か新築か。また既存施設との関係はどうなるのか。

A 新築で整備する計画である。現在の施設を運用しながら新施設を建設し、完成後に移行する予定である。

(意見) 市民への周知が不足しており、重要事業であるにもかかわらず認知されていない。分かりやすい情報発信を行うべき。

Q 他自治体との連携状況はどうなっているのか。

A 南越前町と共同で整備・運用する計画である。

2. 道路補修・地域要望について

Q 道路の損傷（特に自転車走行時など）について、どのように対応すればよいか。要望は提出すべきか。

A 随時点検は実施しているが、見落としもあるため、地域からの要望提出が有効である。都市整備課が対応する。

3. 除雪対応について

Q 除雪の質に業者間のばらつきがある。対応を均一化する取り組みは行われているのか。

A 一定の指導は行っているが、技術差や経験差があるのが実情である。意見・苦情は市へ報告してもらうことで、業者への指導に反映してもらうことが有効。

Q オペレーターの技術差や交代により作業品質に影響が出ている。改善を求めたい。

A 新人オペレーターの場合は、特に安全に配慮することもあり作業には個人差が出ていると考える。

Q 地域によって除雪のタイミングや対応に差があり、不公平感がある。

A 地域条件（降雪量や地形等）により差が生じるが、課題として認識している。

4. 中学校周辺の交通安全対策について

（意見）万葉中学校・仁愛大学の間の道路について、送迎車による渋滞や危険が発生している。対策を考えてほしい。

現状、学校側でもルール設定を行っているが、完全な解決には至っていない。

（他の参加者からの提案）

可能であれば、大学側の駐車場を活用することで、送迎車の分散や徒歩誘導を行ってはどうか。

A 有効な案の一つとして、関係機関との調整を含め検討する価値がある。

5. 歩道整備・道路環境について

Q ファミリーマート前の歩道が拡幅されたまま舗装されず、長期間砂利状態となっている箇所がある。今後の計画はどうなっているか。

A 県道であるので、県に確認のうえ、対応を検討する必要がある。

(意見) 当該箇所では渋滞や通行困難が発生しており、早急な整備が必要である。

Q 側溝の排水能力不足により、降雨時に道路冠水が発生する箇所がある。

A 段階的な改修が必要であり、まず計画に位置付けるためにも地元からの要望提出が重要となる。

6. 学校・保護者負担の軽減について

(意見) 学校行事(例: 体育祭)の準備において、保護者負担が大きい。簡略化や代替方法を検討してほしい。

7. ワクチン補助制度について

(意見) 子どものインフルエンザワクチンについて補助制度の拡充は検討できないか。子どもは2回ワクチンを打たないといけないため、大人と比較しても多額の費用がかかる。全額補助が難しくても、大人の費用との差額に対する補助があるとよい。

Q 帯状疱疹ワクチンについて対象拡大や補助制度は検討できないか。

A 要望として共有する。

8. 住宅・空き家対策について

(意見) 味真野地区には市営住宅がなく、定住希望者が住居確保に苦慮している。空き家バンクなどで探しても情報が少なく、物件のミスマッチがある。

例えば、空き家を買う前提の補助制度でなくて、賃貸としても活用できるような補助制度があるとよい。

9. キッズパーク整備について

Q キッズパーク整備について、市民への情報提供が不足しているのではないか。

A 現状では周知が十分とは言えず、PRの強化が必要である。

(意見) 施設規模が小さく見えることで、期待とのギャップが懸念される。

10. その他

Q 緊急獣害対策（予算約 72 万円）はどのような内容か。

A 主に体制整備であり、緊急銃猟に必要な備品の整備などである。

Q 放置された工場跡地などの空き施設について、今後の対応はどう考えているか。

A 要望として共有する。

(B 班)

進行：小玉議員

記録：松本議員

1. 議会運営・世代交代・行政のあり方について

Q 行政や議会において、若い世代の意見や新しい発想が反映されていないのではないか。従来型（昭和型）の運営との対立はあるのか。

A 行政では諮問委員会等で結論を先に出し、その後議会に提示するケースが見られるが、この手法には課題がある。今後は議会としても主体的に議論を行う必要がある。世代間の違いはあるが、より幅広い議論が重要である。

越前市の財政では、95%程度は使い道が既に決まっており、残り5%程度をどのように使うか議論をしている。

(意見) 財政的に越前市にはお金がないのではないかと。市へ要望しても、何もしてくれない。何年も待たされる。

Q 若者の発想を取り入れた政策形成は進んでいるのか。

A 若い世代の意見を反映する必要性は認識しているが、現実には若者の生活基盤や収入面の問題もあり、議員としての参画が容易ではないという課題がある。

2. 公共施設（温浴施設）のあり方について

Q 温浴施設（湯楽里）の再開時期や方向性は怎么样了のか。

A 現時点では、明確な時期は未定であるが、秋の終わり頃を目途に修繕・再開を目指しているとの情報がある。

Q 多額の費用をかけて施設を整備する必要があるのか。

A 施設の存続自体には一定の理解があるが、過度な投資は不要と考える意見もある。小規模・低コストでの修繕の方向性も検討すべきである。

Q 今立の健康福祉センターの横にあった入浴施設が廃止された理由は何か。

A 利用者の減少や生活様式の変化により需要が縮小し、廃止された。

3. 人口減少・地域活性化について

Q 人口減少が進む中で、地域としてどのような対策を考えているのか。

A 人口減少は全国的な課題であり、新規開発よりも既存資源の活用が重要である。新幹線駅周辺の活用などが鍵になる。

Q 若者が地域に戻らない要因と対策は。

A 主な要因は就業機会や収入水準である。今後は、企業誘致や定住促進策を進め、選ばれる地域づくりが必要である。

Q 企業進出（例：製造業）に伴う人口増加の可能性は。

A 新規雇用により一定の人口流入は期待できるが、通勤ではなく居住につなげる施策が重要となる。

4. 公共交通（バス・デマンド交通）について

Q 路線バスの廃止およびデマンド交通への移行に問題はないか。

A 高齢者にとってデマンド交通は利用が難しく、従来の定時・定路線型のほうが利用しやすい。

（意見） デマンド交通（予約のりあいタクシー）について、利用方法の周知や利用支援が不足しているのではないか。また、週1便でもいいので定時運行する市民バスを走らすことはできないか。

Q 路線バス廃止の意思決定が、地域住民にとって唐突であった。

A 運転手不足と利用者数の減少という事情はあるが、地域への説明や段階的移行があってもいいのではないか。

5. 高齢者福祉・介護施設について

Q 介護施設での対応に問題があった場合、どこに相談すべきか。

A 主管部署である長寿福祉課への相談となる。

Q 施設の医療体制や対応品質に課題があるのではないか。

A 制度上の基準は満たしている場合でも、運用面での課題や人材不足が影響している可能性がある。

Q 介護人材不足の現状について。

A 介護職は給与水準の低さ等により担い手不足が深刻であり、外国人労働者の活用も進んでいる。

Q 介護サービスの改善のための提案はあるか。

A 看護師配置の増加など、基準の見直し（制度改革）の必要性があるとの意見がある。

令和8年5月13日

越前市議会 議長 様

第1班 班長 清水 一徳